

民衆の声
ボイス

VOICEよこはま

公明党横浜市議員団 〒231-0017 横浜市中区港町1-1 TEL 671-3023 FAX 681-2060 http://www.yhkomei.com/ E-mail:shikai@yhkomei.com

支え合いと共生の社会へ

地域包括ケアシステムの構築を目指して

■公明党が法制化をリード

6月、通常国会において医療や介護を見直す総合的な法律「医療・介護総合確保推進法」が成立しました。

団塊の世代が75歳以上となる2025年には、医療と介護の需要が急激に増加することが確実です。住み慣れた地域で医療、介護、予防、住まい、生活支援サービスを切れ目なく利用できる「地域包括ケアシステム」。一段と進む高齢化に備え、公明党は推進本部を設置し、他党に先駆け、実態把握や地方議員との意見交換などを重ねてきました。

■横浜市の地域包括ケアシステム

横浜市は、中期4か年計画（素案）の基本政策の一つに地域包括ケアシステムの実現を掲げています。

2025年を見据え「地域包括ケア計画」を策定し、生涯現役社会の実現に向けた高齢者の活躍できる地域づくりと、住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができる横浜型地域包括ケアシステムを展開します。

■公明党市議団の取り組み

超高齢社会を迎えた本市において、地域の実情に即した包括ケアシステムの構築が重要との認識の上、積極的に議会で取り上げてきました。

また、精力的に研究会や視察を行い、現場での意見交換も重ねてきました。



地域包括ケアについて議論した五大市政策研究会

7月には、厚労大臣に対し、『地域包括ケアシステム』の全国的な構築に向けた政策提言を行いました。



認知症対応施設の視察

地域包括ケアシステムのイメージ図



新たな地域づくりへ、地域のニーズを的確に把握し、経験、実績、ネットワークのある公明党が、皆で支え合う社会づくりをリードしていきます。



訪問介護の現場にて

新たな地域づくりへ、地域のニーズを的確に把握し、経験、実績、ネットワークのある公明党が、皆で支え合う社会づくりをリードしていきます。

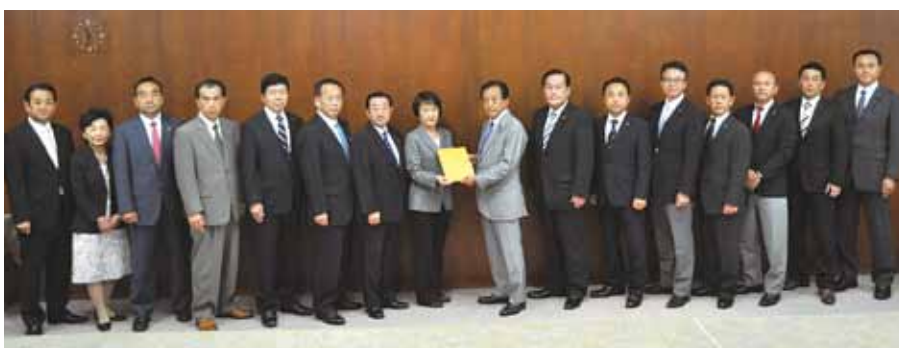
平成27年度予算編成に向け各種団体との政策懇談会を開催



公明党市議団は、毎年恒例となっている政策懇談会を開催しました。これには、党神奈川県本部代表・上田いさむ衆院議員、佐々木さやか参院議員も参加しました。

各種団体からの要望を受けるとともに、施策の現状と課題について意見交換を行いました。今後、これらのご意見、要望事項を検証し来年度以降の政策課題に取り組んでいきます。

平成27年度「横浜市予算要望書」を林文子市長に提出



林市長に要望書を提出する公明党市議団

公明党市議団は10月21日、平成27年度予算編成に対する要望書を林文子横浜市長に提出しました。

要望書は、最重要要望62、重点要望198、各区重点要望77の計337項目で構成されています。具体的な項目として、防災・減災対策では、避難勧告や災害発生時の情報伝達体制の検討や情報弱者への対応強化、近年増加している局地的集中豪雨への対応などを要望しました。

その他、小児医療費助成の拡充や中学校昼食としての横浜型スクールランチの導入、青少年への薬物乱用防止の啓発や中小企業支援など、市政全般にわたり要望をまとめました。

ウォーキングポイント事業

<http://enjoy-walking.city.yokohama.lg.jp>

ヨコハマ エンジョイ ウォーキング

公明党市議団は、市民の健康増進と活力ある超高齢社会を築くため、多くの市民が、気軽に楽しみながら、継続して健康づくりに取り組んでいただけるよう、「よこはまウォーキングポイント事業」の推進をリードしてきました。

いよいよ11月から事業が開始します。

詳しくは、左記のホームページまたは、フリーダイヤル0570・080・130よこはまウォーキングポイント事業事務局まで。



平成25年度決算特別委員会の論戦から

消防局 『かけ崩れへの対策について』



斎藤 真二 (都筑区選出)

最近の集中豪雨に備え、かけ崩れなどの地域の危険個所に対する巡回実施状況を確認するとともに土砂災害警戒区域の危険性を地域の方々に周知することの重要性を主張しました。

消防局長からは、消防職員が区役所・土木事務所と同行し状況確認を行っていること、土砂災害ハザードマップや避難場所とその経路の説明等を通し啓発を行っていくとの答弁がありました。

病院経営局 『市民病院移転・再整備における防音対策』



竹内 康洋 (神奈川区選出)

三ツ沢球技場の隣接地に移転する市民病院について、サッカーJリーグ開催時等の防音対策、さらに立地を生かしたJリーグとのコラボレーションの検討について質問しました。

局長からは防音対策について、コンクリート幅を15センチ以上確保すること、また、現在横浜のJリーグ2チームと連携を始めたとの答弁がありました。



交通局 『障がい者施設との協働推進』



尾崎 太 (鶴見区選出)

交通局では福祉対策の一つとして、バスターミナルの清掃を障がい者施設とともに、現在までに10カ所を実施しています。そこで今後、実施箇所のさらなる拡大を主張しました。

局長は、作業に従事している障がい者施設やバス利用者からも一定の評価を得ていることから、この10カ所での実績を重ね、今後内容を精査する中で拡大を検討すると答えました。



市民局 『犯罪被害者への支援が拡充』



斉藤 伸一 (保土ヶ谷区選出)

公明党の提案で、平成24年6月に開設された犯罪被害者相談室の25年度の取組みを確認しました。

局長からは、相談者の気持ちに寄り添うために、例えば電話や相談室への来訪が難しい方に対しては、訪問し相談者のご希望を尊重しながら、活用できる制度についてご案内するなどの対応を図っていること、さらに、相談支援実績は、合計328件で、犯罪被害等に悩む多くの市民のために貢献している旨の答弁がありました。

教育委員会 『知の拠点・図書館の充実を』



行田 朝仁 (青葉区選出)

図書購入予算が10年前の半分となっている実態、所在不明の図書が毎年平均約1万9千冊、蔵書全体の0.5%程度あることを指摘し改善を要望しました。教育長からは、改善を図る旨の答弁がありました。

経済局 『女性の再就職支援について』



高橋 正治 (緑区選出)

女性が子育てをしながら企業で活躍し続けられる環境づくりについて質問しました。

副市長は、中小企業を対象に、柔軟な就業時間の導入など、女性が働き続けやすい社内仕組み作りのための支援をはじめ、関係局が連携し取り組んでいくと答弁しました。

都市整備局 『コミュニティサイクル事業』



中島 光徳 (戸塚区選出)

『コミュニティサイクル事業(ベイバイク)』について質問しました。

局長は、今年度中にすべての自転車電動アシスト機能付きに切り替わり、起伏の大きい山手地区及び横浜駅・関外地区へエリア拡大を図る他、将来的には、三溪園までエリアを拡大し自転車台数1000台を目指し、1日利用も検討する旨の答弁がありました。



民間との協力で行う 「よこはま健康スタイル」が始まりました!

ライフスタイルに合わせた健康づくりや社会参加等でポイントが貯まる、「よこはま健康スタイル」事業が11月1日からスタートしました。民間事業者からの協力を得て、楽しい景品が用意されています。

健康寿命日本一の横浜へ

健康寿命は、健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる期間のことです。2010年の調査では、横浜市の男性は70.93歳、女性は74.14歳でした。20政令市の中では男性6位、女性5位と比較的上位ですが、日本一を目指そうとしています。

そのためには、生活習慣の改善や、一人ひとりが自分にあった方法で健康づくりを継続的に行える仕組みづくりなどが求められます。

《南区の課題として》

区ごとの健康寿命は、調査数が少ないために算出できていませんが、「日常生活に介護を要しない」平均自立期間を参考値として公表しています。それによると、南

区の男性は横浜市内18区中で3番目に短く、女性は最も短いという結果でした。健康寿命を延ばすことは、南区が重点的に取り組むべき課題です。

こどもから高齢者まで参加できる「よこはま健康スタンプラリー」

横浜市が指定する、運動・スポーツ、食生活、健康づくり・介護予防の講座、イベント等の対象事業に参加してスタンプを3つ集め、健康チェックを受けると応募できる「よこはま健康スタンプラリー」が始まりました。

《応募と抽選》

区役所や地区センター、地域ケアプラザ等で配布している健康スタンプカードにスタンプを3つ集め、職場や学校などの健診や健康チェックなど必要事項を応

募はがきに記入して投函することで応募となります。来年6月30日を締め切りとして、7月に抽選が行われます。約千人分の魅力ある景品が民間事業者から寄せられています。

【お問合せ】045(662)7557

《ホームページ》

<http://www.city.yokohama.jp/ne/news/press/201410/images/phpFnhoRK.pdf>

ステップ1

対象事業(※)に参加してスタンプを3つ集めましょう。

- ※ 1 運動・スポーツ 2 食生活
- 3 健康づくり・介護予防の講座、イベント等で横浜市が指定するもの

ステップ2

健康スタンプカードに漏れなく記入しましょう。



ステップ3

スタンプが3つ集まったら抽選で景品が当たります。景品を選んで応募しよう!



40歳以上が対象の「よこはまウォーキングポイント」

ウォーキングを通じて、日常生活の中で楽しみながら継続して健康づくりに取り組んで頂くことを推進する「よこはまウォーキングポイント事業」が始まりました。(2面に関連記事)

《参加申込み枠を拡大!》

当初、26年度は申込み先着5万人を申込み枠としていました。しかし、市民の皆様から好評をいただいていることから、3万人を追加募集することになり、先着8万人となりました。

《歩数計リーダーの設置》

歩数計のカウントを読み取る専用リーダーが設置されている店舗は約500店舗・施設(11月1日時点)ですが、引き続き1,000店舗・施設を目指し拡大が図られています。

歩数計が届きました



さあ、あなたも!

歩数計リーダーにタッチして登録



公明党横浜市議員団
南区政務調査事務所長
横浜市議員

仁田まさとし



仁田まさとし 検索